

令和 7 年度実施事業
について
資料⑤

基本方針	1：プロモーション強化
主たる具体的な手法	①岸和田の観光資源を知ってもらう基本的な観光情報の発信の強化

A：事業の方向性

【事業概要】

- ・情報発信の強化
(例：本市ウェブサイト、SNS、観光振興協会SNS 等)

【事業効果・効果指標】

- ・本市の認知度向上、閲覧数、フォロワー数、SNS発信数、滞在時間

B：Aに対する委員からの意見取りまとめ（事業・評価項目等）

- ・「富士山が見えるローソン」が超人気になるなど、SNSによる社会への影響力は年々増している。
- ・岸和田市内への訪問者を増やすためにSNS活用策を検討する。
- ・ばらばらに情報発信するのではなく、発信源を共有しておくことで効率が上がるのではないかな。
- ・岸ぶら、市ウェブサイトの観光スポットのリニューアルに期待
- ・本市ウェブサイトをもう少し、綺麗に見えてまとまっている内容に更新する方が良い。そしてSNSで存分にプロモーションするべきである。
- ・ホームページのリニューアルは重要であると考え。しかし、「岸ぶら」「岸和田市」その他SNSでのプロモーションの目的や役割を明確にしないと、連動がうまくいかないのではないかな。

C：アクションプランに沿った取組みイメージについての委員からの提案

【事業提案】

- ・岸和田市内でインスタ映えするスポットを発掘するため、「（仮称）インスタ映え選手権」等を開催し、優勝者には賞金や岸和田観光大使への任命、優勝賞品等を授与するなど、日本・海外を問わず、様々な方を巻き込むイベントを開催する。
- ・フォロワー数を拡大する方法として、ちきりくんまたはオリジナルキャラクターを設定しX等で情報発信してはどうか。
- ・様々なイベントや街並み取材し、SNSを通して親しみを感じていただく。
- ・リニューアルされた岸和田市の観光スポットを他のサイト（KIX泉州ツーリズムビューロー、yahooトラベル、じゃらんnetなど）にもリニューアルを呼び掛ける
- ・若者や外国人に好まれるようなWebサイトを作成したり、多少派手でも目に留まるようなデザインにすることが良いと考えられる。
- ・閲覧数、フォロワー数、SNS発信数、滞在時間などの目標は必ず数値で確認、委員会で確認できるようにする。
- ・それぞれの情報発信ツールの役割を明確化し、ターゲットが必要とする情報の発信ができるよう他のウェブサイトやSNSとの連携を進めていくのが良いのではないかな（子育て世代に向けた観光情報、歴史好き中高年男性に向けた観光情報など）。

基本方針	1：プロモーション強化
主たる具体的な手法	②観光コンテンツに興味をもってもらうキャンペーンや民間媒体の活用

A：事業の方向性

【事業概要】

- ・民間事業者の広告媒体を活用した発地プロモーション強化
（例：交通機関の広告、民間事業者の事業への参画 等）

【事業効果・効果指標】

- ・本市の認知度向上、サイト閲覧数、SNS発信数、協力事業者数

B：Aに対する委員からの意見取りまとめ（事業・評価項目等）

- ・万博開催を契機に設置される近畿運輸局の媒体を活用したプロモーションを行ってはどうか
- ・発地におけるプロモーションは、市内に限らず、りんくうタウン等も含めてはどうか。
- ・弊社には西naviという広告媒体があり、JR西日本エリアの各駅に設置している。ここに岸和田市の情報を掲載することが可能である。（無料）
また、有料になるが紙面を大きく使用し、大体的に特集を組むことも可能。

C：アクションプランに沿った取組みイメージについての委員からの提案

【事業提案】

- ・関西国際空港第1ターミナル1階到着ロビーに設置される万博PRブースを活用したプロモーションの実施
- ・りんくうタウン等、場所を調査し、プロモーションの実施

基本方針	1：プロモーション強化
主たる具体的な手法	③多様な主体との連携強化

A：事業の方向性

【事業概要】

- ・フィルムコミッションの推進
- ・大阪観光局との協働事業のブラッシュアップ

【事業効果・効果指標】

- ・本市の認知度向上、閲覧数、SNS発信数、協力案件数

B：Aに対する委員からの意見取りまとめ（事業・評価項目等）

- ・より広域を考えた連携を模索してはどうか
- ・2025年はJRDCキャンペーン、大阪関西万博開催年であり、大阪・岸和田が注目されるキーイヤーとなる。岸和田の認知拡大とともに、ならではのコンテンツについてHPやSNSでの発信を、上記タイミングに合わせ、タイムリーかつ効果的に行う必要がある。
- ・関西国際空港プロモーションスペースを活用することはインバウンドを強化する上で重要だが、認知度向上という目的だけでは弱い

C：アクションプランに沿った取組みイメージについての委員からの提案

【事業提案】

- ・KIX泉州ツーリストビューローやグレーターミナミ、大阪商工会議所との連携を行う
- ・JRDCキャンペーンや大阪関西万博に来られた観光客に対し、おもてなしを通じて満足度を高め、口コミ発信を誘発するとともに、リピーターに繋げていく事が肝要。また、単発（点）での発信ではなく、泉州地域で連携協力した線・面でのストーリーを発信訴求していくべきと思う。
- ・関西空港～なんば（各ホテル）への外国人の手ぶら観光のインフラが徐々に浸透しつつあるので、申し込み拠点に岸和田のPR（コンテンツ、アクセス、所要時間）を行うことが今後功を奏してくると思う。
- ・観光コンテンツをPRするだけでなく、どの国のどのような属性の人が岸和田市の観光コンテンツの何に興味を持ってもらったのか、という情報を得る場とすることで、今後のインバウンド施策の提案につながるのではないかと。こうした細かなデータを収集する場として活用する。

基本方針	2：観光コンテンツの充実
主たる具体的な手法	①だんじり文化を活かした通年観光の促進の強化

A：事業の方向性

【事業概要】

- ・だんじり文化を活かした新たなコンテンツの開発

【事業効果・効果指標】

- ・本市の認知度向上、関連サイト閲覧数、参加者数、参加者のSNS発信数、満足度、だんじり会館企画事業への活用等

B：Aに対する委員からの意見取りまとめ（事業・評価項目等）

- ・岸和田市が泉州他市に比べ、絶対的優位なのは「城」「だんじり祭」の存在である。
- ・複数回日本を訪問している外国人は、従来の体験をさらに上回る体験、本国に戻り「プチ自慢」できるような体験を欲していると聞く。「滞在・体験型」のプランをつくるなど、一步踏み込んだインバウンド誘致策が必要と感じる。
- ・万博に来場するインバウンドを対象としただんじりコンテンツにしてはどうか
- ・観光コンテンツを大枠でとらえるのではなく、個別具体的に●●の開発といった方が、開発速度が上がるのではないか。
- ・観光コンテンツの充実について、①②③④を、個別ではなく、それらを組み合わせた事業を検討することも重要。
- ・だんじり小屋巡りは、祭礼期間外にも誘客できる有力コンテンツに成り得ると思う。
- ・本年のだんじり祭をみても、岸和田観光の中心は岸和田だんじり祭だ。祭の参加者、観光客、市民の熱気、日頃静かな城下町が年に一度の興奮のるつぽと化す実情をながめた時、文句の言う人はいないだろう。だんじり文化を活かした通年観光の促進の強化は岸和田観光の最重点だ。
- ・だんじり祭を活かした新たなコンテンツの開発については、岸和田市を売り出せるようなWebサイトとはまた別のなにか（ブログでも）を開発すればよいのではないか。
- ・本市Webサイトとは別枠でしっかりアピールできるプラットフォームを構築するべきだと考える。
- ・だんじり祭をわかりやすく発信することは重要であり、そのための施策として捉えることができる。外国人向けの説明、子どもたち向けの説明が新たな「だんじり祭ファン」獲得につながるのではないか。

C：アクションプランに沿った取組みイメージについての委員からの提案

- ・本国に戻り「プチ自慢」できる体験として、例えば、「だんじり祭」については、従来の「触れ合う」レベルではなく、地元で一定期間住み込み、祭り直前の「寄り合い」などのコミュニティにも参加、保険にも入り、祭りにも実際参加するなど、本物を体験していただく。
- ・参加した町会には、旅行会社等から補助金（寄付金）を出すことで、町会の財政を支援する。
- ・だんじり祭開催日以外でも、一定期間、町会に住み込むことを前提に、地元とのコミュニティに参加、「プチ自慢」できるような体験をしていただく。また、祭り直前にも再来日していただけるよう祭り気分を堪能していただく。
- ・万博を契機としてだんじり文化の訴求をはかる
- ・サイクリングツアー + だんじり巡り、食巡り、歴史資源巡り、街歩きとの組み合わせ事業
- ・岸和田の城下町ならではの季節の歳時記にあわせ、住民との生活感が垣間見える交流型の観光として、だんじり小屋巡りを定着化すればどうか。
- ・お城まつり、もみじまつり等にだんじり鳴り物の出演。
- ・だんじり祭当日以外でだんじり文化に触れ合う機会を提供するために各町のだんじり小屋見学の継続。
- ・だんじり会館を積極的に利用し、各町のだんじりの歴史や彫り物等を紹介し、だんじり祭を広く知ってもらい、誘客促進に繋げ、リピーター化を目指す。またそのために各町の組織や担当者に協力を求めることも必要
- ・だんじり文化を活かした施策の提案に関しては、9月の岸和田祭りがもう終わってしまったが、だんじり祭の際の専用のアプリ（駐車場、トイレの位置、混雑度などが把握できるようなものが良い）を導入することを検討することが良いのではないか。
- ・だんじり祭未経験者（子連れの若い夫婦、外国人など）の中でターゲットを明確化し、だんじり祭に行きたいと思わせるようなプログラムを作成する。

基本方針	2：観光コンテンツの充実
主たる具体的な手法	②豊富な特産品を活かした「食」観光の推進

A：事業の方向性

【事業概要】

- ・市域全体を活用した「食」コンテンツの開発
(例：コンテスト、コンクール、磨き上げや発掘 等)
- ・岸和田城周辺を活用した「食」コンテンツの開発
(例：二の丸広場や五風荘など連携したイベント開催 等)
- ・新たなお土産の開発

【事業効果・効果指標】

- ・本市の認知度向上、申込サイト閲覧数、申込・参加者数、参加者のSNS発信数、満足度、造成・開発・ツアー催行数、協力事業者数、消費額

B：Aに対する委員からの意見取りまとめ（事業・評価項目等）

- ・岸和田の食の核となるコンテンツの開発、PRをしてはどうか
- ・観光コンテンツを大枠でとらえるのではなく、個別具体的に●●の開発といった方が、開発速度が上がるのではないかと。
- ・観光コンテンツの充実について、①②③④を、個別ではなく、それらを組み合わせた事業を検討することも重要。
- ・新たな「食」コンテンツの開発についてだが、新たに開発することに注力するよりも今ある比較的有名な食コンテンツ（桃など）をもう少し宣伝していくべきである。
- ・桃、ぶどう、いちじくといったメインが明確である方が良い。季節に合わせて、スイーツのために岸和田を訪れてくれるための仕掛けが必要。

C：アクションプランに沿った取組みイメージについての委員からの提案

【事業提案】

- ・サイクリングツアー + だんじり巡り、食巡り、歴史資源巡り、街歩きのみ組み合わせ事業
- ・食コンテンツの充実と発信については、どこで岸和田ならではの名物が食べられるのかわかりにくいので、適切なプロモーションが必要。お土産も同様で、お金を落して頂ける場所とコンテンツを作り込むことが肝要。
- ・桃に関してはバスツアーなどが行われているので、このまま継続すべき。食コンテンツの開発・宣伝にどこまでの予算をかけるのか、他の分野に注力するのか、数値と共にはっきりさせるべきだ。
- ・岸和田のお土産の開発にもつながるような、スイーツコンテストが必要ではないかと。

基本方針	2：観光コンテンツの充実
主たる具体的な手法	③豊かな歴史資源を活用した体験型コンテンツの開発と発信

A：事業の方向性

【事業概要】

- ・岸和田城周辺を活用した四季に応じた観光コンテンツの開発
（例：リニューアルに向けたイベント、節句やクリスマス 等）
- ・市内全域を活用したコンテンツの開発
（例：既存ツアーのブラッシュアップ、新規ツアー造成 等）

【事業効果・効果指標】

- ・本市の認知度向上、申込サイト閲覧数、申込者数、参加者のSNS発信数、満足度

B：Aに対する委員からの意見取りまとめ（事業・評価項目等）

- ・観光コンテンツを大枠でとらえるのではなく、個別具体的に●●の開発といった方が、開発速度が上がるのではないかな。
- ・観光コンテンツの充実について、①②③④を、個別ではなく、それらを組み合わせた事業を検討することも重要。

C：アクションプランに沿った取組みイメージについての委員からの提案

【事業提案】

- ・サイクリングツアー + だんじり巡り、食巡り、歴史資源巡り、街歩きの組み合わせ事業

基本方針	2：観光コンテンツの充実
主たる具体的な手法	④観光コンテンツの周遊促進の強化

A：事業の方向性

【事業概要】

- ・サイクルイベントのブラッシュアップ

【事業効果・効果指標】

- ・本市の認知度向上、サイト閲覧数、イベント来場・参加者数、参加者のSNS発信数、ツアー催行回数

B：Aに対する委員からの意見取りまとめ（事業・評価項目等）

- ・観光コンテンツを大枠でとらえるのではなく、個別具体的に●●の開発といった方が、開発速度が上がるのではないかな。
- ・観光コンテンツの充実について、①②③④を、個別ではなく、それらを組み合わせた事業を検討することも重要。
- ・歩く場所が限定されている点で、車での観光よりもサイクリング観光の方が可能性が高いと言える。

C：アクションプランに沿った取組みイメージについての委員からの提案

【事業提案】

- ・サイクリングツアー + だんじり巡り、食巡り、歴史資源巡り、街歩きの組み合わせ事業
- ・サイクリングにおいて必要なスポットや駐輪場の整備がないと、街中に自転車が溢れることになる。単なる自転車イベントではなく、地域の人たちの自転車マナーなどへの啓発にもなるような自転車に乗ることのカッコよさを伝えられるイベントとして、情報発信すべきである。

基本方針	3：受入体制の整備・充実
主たる具体的な手法	①市民や事業者等が一体となって観光振興に取り組む機運醸成

A：事業の方向性

【事業概要】

- ・事業者等との協働によるまち歩きツアー

- ・観光アンバサダー発掘

（例：公募の実施や養成講座 等）

【事業効果・効果指標】

- ・本市の認知度向上、申込サイト閲覧数、申込・参加者数、協力事業者数、認定数、認定者アカウントのフォロワー数

B：Aに対する委員からの意見取りまとめ（事業・評価項目等）

- ・観光に対する市民への理解促進は継続して行っていく必要があると思う。

C：アクションプランに沿った取組みイメージについての委員からの提案

【事業提案】

- ・市民広報誌に観光の効果や状況を掲載するなど、観光客が来ることが市民生活にもメリットがあることを、観光セクションだけではなく、全庁横断的に進めるべきと思う。

基本方針	3：受入体制の整備・充実
主たる具体的な手法	②生活にも配慮した観光地としての基盤整備

A：事業の方向性

【事業概要】

- ・観光受入体制の整備

（例：デジタルサイネージの導入 等）

- ・アプリの活用

（例：周遊促進や観光案内、その他モデルコースの設定 等）

【事業効果・効果指標】

- ・閲覧数、コース数、スポット通過数

B：Aに対する委員からの意見取りまとめ（事業・評価項目等）

C：アクションプランに沿った取組みイメージについての委員からの提案

【事業提案】

基本方針	3：受入体制の整備・充実
主たる具体的な手法	③歴史や文化を次世代に継承するための調査研究や市民への講座

A：事業の方向性

【事業概要】

- ・観光関連講座の実施

（例：市民向け、職員向け、事業者向け、ボランティアガイド 等）

【事業効果・効果指標】

- ・本市の認知度向上、申込サイト閲覧数、申込者数

B：Aに対する委員からの意見取りまとめ（事業・評価項目等）

- ・歴史文化の調査研究・講座のために、だんじり会館をもっと充実・活用させる。

C

：アクションプランに沿った取組みイメージについての委員からの提案

【事業提案】

- ・だんじり会館の展示機能を充実させるだけでなく、だんじり文化を発信できる研究調査拠点として充実させる。これに関しては、市立図書館との棲み分け（または協調）が必要かと考える。

- ・小学校高学年（5年生）に地域産業文化紹介とし、岸和田だんじり祭講座を開設する。講師は祭礼関係者に協力を求める

- ・だんじり文化を次世代に継承するために、小学生によるだんじり絵画、岸和田城絵画を募集し、コンクールを実施。入選作品をだんじり祭の重要な用具である団扇に転写し利用する